

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	地域行事、会合等へ参加するだけでなく、地域ボランティアの受け入れも増やしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	地域住民、ボランティア等が、気軽に立ち寄ってもらえる様、施設のアピールをしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	積極的に、地域行事、会合等へ参加していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域高齢者の為、通所事業、短期入所事業が出来ないか、検討している。	○	まだ、話し合い段階の為、今後実践できるようにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を活かし、職員会議等を通じて、改善努力をしている。	○	評価を活かし、様々な改善に取り組んでいきたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、取組状況等の報告、話し合いを行っている。また、意見を理解し、サービス向上を図っている。	○	運営推進会議の意見を、積極的に活用していく。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明・疑問な点があった時等、電話だけでなく、直接市役所へ出向き、市役所担当者と密に連携を図っている。	○	市役所担当者と連携を図り、サービス向上を図りたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者の中に、成年後見制度を利用している方がいる。また、職員会議等で勉強している。	○	定期的な勉強会を実施していく。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、外部研修等で勉強し、事業所全体で虐待防止に取り組んでいる。	○	定期的な外部研修参加や、勉強会を実施していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約書、重要事項説明書等は、十分な説明を行い、同意を得て、記名、捺印をいただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置だけでなく、入居者とコミュニケーションを図り、積極的に意見を聞いている。また、外部より、月1回相談員が来所して、意見の反映を行っている。	○	利用者が意見を言い易いような、環境作りに努める。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりについては、毎月家族宛での便りや、電話、面会時に報告している。健康状態、職員の異動等に関しては、その都度、電話、書面にて報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見があった時は、報告書に記載し、全職員に回覧している。全職員が逸早く把握し、事業所の優先業務として対応している。	○	家族等の意見を真摯に受け止め、サービスの向上を図っていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を行い、職員の意見等を聞く機会を設けている。また、運営者、管理者は、こまめに声かけを行い、職員の意見等に耳を傾けている。	○	運営者、管理者は、職員の意見等を、積極的に聞く様努める。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟な対応が出来るよう管理者、職員で話し合い、勤務調整を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が不安にならぬ様、職員の異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。	○	職員が代わる場合は、慣れるまで、新職員とベテラン職員をペアで勤務させ、利用者へのダメージを防ぐようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外研修の機会を確保し、受講後は、復命書や回覧等で、全職員の周知徹底を図っている。	○ 施設内外研修の機会を多くし、職員育成に努めていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会に参加し、同業者との勉強会や情報交換を行っており、サービスの質向上を図っている。	○ 相互訪問の機会を設け、サービスの質向上を図っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、管理者、職員の意見等を、積極的に聞き、助言を行っている。また、勤務上、希望の休みを取り入れたり、休憩室の確保等、ストレス軽減に取り組んでいる。	○ 運営者は、引き続き、管理者、職員の意見等を、積極的に聞き、ストレス軽減に努めていく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者、職員と話す機会を設け、各自が向上心を持って働けるように努めている。	○ 運営者は、引き続き、管理者、職員と話す機会を設け、向上心を持って働けるように努めていく。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話だけでなく、直接会い、本人自身から、不安等を聴き、信頼関係構築に努めている。(認知症等で、本人の意向が確認できない時は、家族等へ行っている)	○ 十分に話を聴き、本人が安心、納得できる様、努めていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話だけでなく、直接会い、家族自身から、不安等を聴く機会を作り、信頼関係を築いている。	○ 十分に話しを聴き、家族が安心、納得できる様、努めていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と密にコミュニケーションを図り、問題点を明記し、場合によっては、在宅介護支援センター等へ相談し、最良の支援策を検討している。	○	情報交換を密に行い、最良の支援ができる様、努めていく。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族等から、アセスメントを十分に行い、本人が安心、興味の持てる声かけを行っている。他者との交流もスムーズに行える様、職員が密に、声かけを行っている。また、居室には、本人が使用していた物、道具等を設置するようにしている。	○	他利用者、場の雰囲気、早く馴染める様、全職員で配慮していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員が、共に会話する時間を作り、昔の生活や思い出話等をしながら、お互いに支え合う関係づくりをしている。	○	利用者との交流の場を増やしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	誕生会や敬老会等を行う時、家族参加して頂けるよう通知し、交流を行えるよう努めるようにしている。	○	家族との交流の場を増やしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が気軽に訪問し易い環境作りに努め、訪問の際は、利用者の生活状況等を伝えている。	○	家族との外出、外泊ができるようコミュニケーションの構築に努める。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々、馴染みの人に電話したり、手紙を書くようにして、関係が途切れないようにしている。	○	馴染みの人、場所等の関わりもつ機会を作っていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	トラブルが起きない様、また良い関係を保つために、施設行事等への参加、食卓の配置等に配慮している。	○	今後も、利用者間の関係を注意して見守っていき、利用者同士が支え合えるよう支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても継続的なかわりを必要とする利用者や家族には、電話や直接会って、話を聞く等して、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。	○ 退去後の付き合いも大切にできるよう支援している。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者、職員は、利用者との会話に努め、細かな希望や意向を聞きとるようにしている。困難時は、家族等にも希望、意向を聞いている。	○ 引き続き、本人と会話することで、暮らしに対する細かな意向や希望を聞いていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から、本人、家族、関わってきた他事業者から情報収集を行い把握している。	○ 引き続き、本人、家族、関わってきた他事業所とコミュニケーションを図り、利用者把握に努めていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、朝、夕2回の健康チェックや状態観察、言動の観察を行い、総合的に把握している。	○ 職員同士が情報交換し、利用者の把握を行い、異常の早期発見に努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が本人、家族、職員との話し合いのもと介護計画書を作成している。	○ 積極的な意見の交換を行い、よりよい介護計画書の作成に取り組みたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成担当者が、定期的な見直しを行っている。また状態変化時は、カンファレンスを行い、現状に即した計画を作成している。	○ 病状、介護度の変化時は、その都度、介護計画の見直しを行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録だけでなく、申し送りノートにも記載し、情報共有している。それに基づき、サービスや介護計画の見直しを行っている。	○	利用者ごとに担当者を決め、より細かな情報共有を行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同建物1Fの通所介護事業所と交流を図っている。	○	利用者、家族の要望に応じて、柔軟に対応していく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員会にて、民生委員等と協力しながら支援している。また、消防訓練を定期的に行い、消防機関とも連携を図っている。	○	今後も、民生委員、ボランティア、外部機関(警察、消防、文化・教育機関等)と連携を図っていく。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同建物1Fの通所介護事業所と交流を図るだけでなく、理学療法士による機能訓練も行っている。	○	引き続き、同建物1Fの通所介護事業所と連携を図っていく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ、地域包括支援センターとの協働する機会がない。権利擁護について、必要な時は、話し合いの場を持つ準備はできている。	○	今後も、本人の意向や必要性があれば、地域包括支援センターと協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅訪問診療(2病院)や、定期受診を行っている。主治医と密に連絡を取り合い、利用者の状態把握を行っている。	○	今後も、主治医との連携を密に行っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	在宅訪問診療や、定期受診で、主治医と密に連絡を取り合っている。	○	認知症専門医と今後も連携を図っていく。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	看護職員や主治医の看護師と相談しながら、健康管理医療活用の支援をしている。	○	看護職員だけでなく、介護職員も利用者の健康管理について、積極的に支援していく。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入院前、入院中、退院前には必ず主治医、担当看護師、家族や職員と連絡や話し合いの場を持ち、退院に備えて、連携している。	○	早期退院に向け、医療機関と連携を図っている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化、終末期について看取りの指針があり、本人、家族、医療機関の同意を得ている。		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	重度化、終末期について看取りの指針があり、それに基づき、職員と医療機関で連携を図っている。		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	契約が終了しても継続的なかわりを必要とする利用者や家族には、その後関わるケア関係者と、十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	○	退去後の付き合いも大切にするよう支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護の勉強会の実施だけでなく、日頃から言葉かけや対応についても、配慮している。	○ 引き続き、プライバシー確保の徹底を図っていく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常日頃より、利用者とのコミュニケーションを大切にし、利用者の自己決定を促すよう支援している。	○ 利用者のペースに合わせた自己決定支援を行っていく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画に基づいた支援を行っているが、突発的な希望等に対し、柔軟に対応できない時がある。	○ 利用者の希望に沿った支援ができるよう努めていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容については、月1回業者が出張サービスを行っている。身だしなみやおしゃれに関しては、常に声かけし、できない利用者に関しては、職員が支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスの良い冷凍食品や、手作り品を提供している。利用者のレベルにもよるが、一緒に準備、片付けは、ほとんどできていない(台拭きができる程度)。昼食は、職員も同じテーブルで一緒に食事を取っている。	○ 糖尿病の方等もいるが、極力一人ひとりの好みに沿うよう努めていく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	主治医に相談し、健康に注意しながら、一人一人に合わせた支援を行っている。	○ 原則として、お酒、タバコは、禁止している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄チェックを行い、排泄パターンを把握し、気持ち良く排泄できるよう支援している	○	出来るだけ、オムツ使用を減らす支援に努めていく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介護計画に基づいた支援を行っている。本人希望、不穏時は、決められた日、時間に限らず、臨機応変に対応している。	○	バイタルチェックを確実にを行い、ゆっくりとした気持ちの良い入浴ができるよう支援していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、レクリエーション、機能訓練等を行い、夜間良眠出来るよう支援している。中には、昼過ぎに、自室やソファで昼寝をされる方もいる。	○	安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、洗濯物たたみ、台拭き等、職員と一緒にを行い、役割、気晴らしの支援を行っている。	○	今後も、役割、楽しみごと、気晴らしの支援を行っていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避の為に、常時、職員でお金の管理している。買い物時等、必要時のみ渡し、職員と一緒に支払うようにしている。	○	お金の所持、使う機会を増やしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿って、散歩を毎日行っている。中には、外出を拒否する利用者もいるが、ドライブ、買い物等には、定期的に参加している。	○	本人の希望に沿った外出支援を行っていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	他利用者と一緒に、普段行けない所へ、ドライブ参加していただき、気分転換を図っている。家族の都合もあり、家族と一緒に、外出される機会はない。	○	普段行けない場所への、外出機会を増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等を作成し、家族等へ送っている。電話や手紙を促すも、自ら進んで、連絡・やりとりを行う利用者は少ない。	○	自ら進んで、。電話や手紙で、連絡・やりとりを行うよう支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪者が、気軽に訪問し、居心地よく過ごせるよう、家庭的な雰囲気づくりを心掛けている。	○	来訪者が、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議、外部研修等で勉強し、事業所全体で取り組んでいる。	○	定期的な外部研修参加や、勉強会を実施していく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関入口に鍵をかけないケアに取り組んでいる。	○	引き続き、鍵をかけないケアを行っていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、事故がないよう安全に配慮している。	○	常時、利用者の安全を第一に支援していく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人一人の状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	○	常時、利用者の安全を第一に支援していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハッと報告書や事故報告書について話し合ったり、職員会議等で勉強し、事業所全体で取り組んでいる。	○	定期的な外部研修参加や、勉強会等を実施していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員会議、外部研修等で勉強し、事業所全体で取り組んでいる。	○ 定期的な外部研修参加や、勉強会を実施していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	施設内で定期的な防災訓練を行っている。また、地域の自治会や防災訓練に参加し、地元の人々と一緒に、避難・消火・炊き出し訓練に参加した。	○ 積極的に、施設内防災訓練を行うだけでなく、地域行事、会合等へ参加し、地域の人々の協力を得られるよう働きかけていく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者のリスクについて、病院、施設と密に連携を図り、その都度、家族へ説明をしている。	○ 今後も、リスク対応に関して、家族等との話し合いを密に行っていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝、夕と1日2回バイタルチェックを行っている。また、常に利用者の状態観察を密に行い、体調異変時は、その都度、主治医へ連絡し、指示を仰いでいる。その後、家族等へ連絡し、情報共有をしている。	○ 今後も、利用者の状態観察を密に行い、体調変化の早期発見に努め、迅速な対応を心掛けていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとに、薬情報を保管し、職員がいつでも閲覧できるようにしている。病院受診・往診の際、薬が変わった時は、その都度、職員申し送りノートに記載し、職員一同、服薬の支援と症状の変化の確認を行っている。	○ 今後も、薬の重要性を理解し、服薬支援を行っていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取量の確認だけでなく、便秘予防の食品(牛乳、ヨーグルト、寒天等)摂取に努めている。また、日中、散歩や機能訓練、レクリエーション等で体操を取り入れ、身体を動かす支援を行っている。	○ 排便困難時は、医師の指示のもと下剤服薬で、排便コントロールを行っている利用者もいる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行っている。	○ 利用者によって、声かけ見守り、一部介助、全介助と、確実に、口腔内の清潔を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立に沿って、食事提供している。水分摂取チェック表を確認しながら、水分確保に努めている。	○	引き続き、主治医等にも状況報告し、利用者の食生活について、十分な配慮を行っていく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルがあり、勉強会等を実施している。	○	引き続き、感染症予防に努めていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、台所の清掃と、調理用具等の消毒を行っている。食材についても、衛生係を中心に、賞味期限の確認等、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	○	引き続き、衛生係を中止に食材管理を行っていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設周囲には、花を植えたプランターや菜園がある。玄関にも観葉植物を置き、構造は、段差の無いバリアフリーとなっている。	○	今後も、利用者や家族、近隣の人等にとって、親しみやすく、安心して出入りができるよう努めていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓にはカーテンがあり、利用者にとって不快な光がないように配慮している。施設行事(ドライブ等)の写真や、利用者の作品等を飾り、生活感や季節感を取り入れている。	○	居心地のよい共用空間づくりに努めていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、食堂には、それぞれソファや椅子があり、独りで過ごしたり、気の合った利用者同士で過ごしたりしている。また、ベランダもあり、ベランダから外を眺める利用者もいる。	○	利用者が思い思いに過ごせるような居場所の工夫を行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、本人の使い慣れた物、なじみの物を持ってきてもらっている。また、レクリエーション等で作成した作品を飾る等している。	○	居心地よく過ごせるような居室の配慮に努めていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめな換気を行い、エアコン使用時は、外気温と大きな差がないよう確認している。また、利用者の状況に合わせて、こまめに対応している。	○	今後も、換気・空調の配慮に努めていく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で行えるよう、必要箇所へ手すりを設置したり、生活空間の整理整頓等、環境整備を行いながら、事故防止を図っている。	○	利用者の状態を更に把握し、身体機能を活かした安全な環境づくりに努めていく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自力で自室へ帰れるよう、自室表示等を工夫し、何度も訓練を行い、理解できるよう支援している。また、ぬりえや計算等を行い、わかる力づくりも行っている。	○	様々な方法を取り入れ、わかる力を活かした環境づくりを行っていく。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設周囲には、花を植えたプランターや菜園があり、水をやる等して、成長を楽しんでいる。ベランダでは、外を眺めたり、利用者同士が談笑したり、洗濯物を干す等して過ごされている。	○	今以上に、建物の外周りや空間の活用を行っていく。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1階のデイサービス利用者との交流だけでなく、理学療法士の方にも来てもらい個人に合わせたリハビリを行っている。レクリエーションや、施設行事を行い、心身の活性化を図っている。